

アート&amp;ヘリテージ

**Inspire Beauty** - Inspire our culture with Japanese beauty

日本の美によって、世界の美意識という文化に新たな気づきを与えます。

**芸術文化を通じたより良い世界の実現へ**

資生堂は、1919年に創設し現存する日本で最古の画廊といわれる資生堂ギャラリーの活動を中心に、「新しい美の発見と創造」を理念として芸術への支援活動を続け、日本の芸術文化の発展に寄与してきました。現在も公募プログラム「shiseido art egg」を開催し、年間3組、2029年までに30組の新進アーティストのサポートを目標にしています。初代社長・福原信三は事業活動に芸術を取り入れ「商品の芸術化」に取り組みました。資生堂ギャラリーおよび資生堂アートハウスでは、展覧会を開催するとともに社内外に向けて年間16回、2029年までに160回のギャラリートークを開催していきます。当社は今後も芸術文化活動を通じて、世の中に新たな価値を紹介し、経営および社会価値創造に活かしていきます。

**資生堂ギャラリー**

現代アートを中心に展覧会を開催しています。新進アーティストの発掘、支援育成を通じて新たな価値の発見、また新たなアートを社会へ還元することにより、日本の芸術文化振興の発展に寄与、貢献しています。

**shiseido art egg**

現代アートの公募プログラム「shiseido art egg」を通じて、毎年3組の新進アーティストの資生堂ギャラリーでの発表の場を提供しています。

**資生堂アートハウス**

資生堂ギャラリー主催展に出品された絵画、彫刻、工芸品の一部をコレクションし、静岡県掛川市にある資生堂アートハウスで収蔵、一般公開しています。地元の芸術文化の振興にも寄与しています。

**企業文化誌『花椿』**

1937年創刊の企業文化誌『花椿』は、現在、季刊誌とウェブの2媒体で、文化・芸術・美に関する情報を発信しています。日々の生活を美しく彩る価値観を伝えるメディアとして、多くの方との接点を生み出しています。



### ▶ 芸術文化支援（協賛）活動

現代美術を中心に演劇やダンスなど、同時代のさまざまな表現活動に対する支援（協賛）を行ってきました。これまでの協賛実績をご紹介します。※2019年から公募は行っていません。



## ■ 資生堂の資産を社会価値創造の源へ

資生堂は、150年近い企業活動の中で商品や宣伝制作物などを始めとするさまざまな価値や企業文化を生み出し、受け継いできました。1992年には創業120周年の記念事業として資生堂企業資料館を設立。企業資料を一元的に収集・蓄積し、社外に一般公開するとともに資料貸出、調査協力などを行っています。また、社内へのヘリテージ教育に注力しており、グローバル化が進む近年は創業の理念やDNAを伝えるヘリテージ発信を強化。全社員への講演や研修、eラーニングなどを通じた教育機会を2029年までに50回以上実施していきます。また、ミュージアム施設等での社員へのガイドツアーも年間300回以上実施し、グループ社員のロイヤルティ向上と新たな価値創造の源泉に繋げ、当社が目指すビューティーイノベーションを加速していきます。

### ▶ 資生堂企業資料館

1872年の創業時から当社が制作してきた商品パッケージや広告、銀座に関する文献などさまざまな資料を一元的に収集・蓄積し、その一部を公開しています。資生堂の歴史やその根底に流れる美意識を体感いただけます。



### ▶ S/PARK Museum

2019年、当社とお客さまとの双方向のコミュニケーションを通じて美を感じられる、体験型ミュージアムを設立しました。未来へつなげるビューティーイノベーションを生み出す場として、さまざまなコンテンツによる体験や出会いを提供します。



### ▶ ジャパニーズ・ビューティー・インスティテュート (JBI)

2019年に「ジャパニーズ・ビューティー・インスティテュート」を設立。イベント開催やオンラインコンテンツの配信を通じて、当社がもつジャパニーズビューティーに関する知見やブランドの価値観の根底に流れる美意識を世界に向け発信しています。



## 芸術文化支援（協賛）活動

### 基本方針

資生堂のメセナ活動の原点は、1919（大正8）年に開設した「資生堂ギャラリー」に遡ります。作品を発表する機会に恵まれなかった当時の若手芸術家たちに無償で会場を提供しながら、彼らが世に出て行くことを後押しし、ひいては美しい生活文化の創造に貢献することを目的としていました。

以来、メセナ活動の中核である協賛活動において、美術、舞台芸術を中心とした同時代の様々な表現活動に対する協賛を行い、「新しく深みのある価値を発見し、美しい生活文化を創造する」という企業理念の具現化を目指しています。



1928年頃の資生堂ギャラリー



現在の資生堂ギャラリー

## 主な支援活動

### リー・キット 「僕らはもっと繊細だった。」

アジアのアートシーンを牽引する注目の作家リー・キット（李傑／Lee Kit）が、日本の美術館では初の個展を開催します。

独特の歴史的背景を持って揺れ動く街・香港を出自とし、現在は台湾を拠点に活動するリーは、アートという開かれた表現を通して自身のあり方を問い、自分が生きる今の世界と向かい合おうとしています。

展覧会を開催する場合、その街、その場所の空気や感情に静かに寄り添い、サイトスペシフィックな作品（＝特定の場所に存在するために制作すること）を創り上げるのも大きな特徴です。

原美術館という場からリーが何を感じ、どのような新しい“絵画”を描くのか、本展では彼の魅力が遺憾なく発揮されます。

**会期** 2018年9月16日（土）～2018年12月24日（月・祝）  
**会場** 原美術館  
**詳細** <http://www.haramuseum.or.jp>



© Lee Kit, courtesy the artist and ShugoArts

### 石内都 <sup>きめ</sup>肌理と写真

石内都は2014年にアジア人女性として初めてハッセルブラッド国際写真賞を受賞するなど、国際的に最も高く評価される写真家のひとりです。

2017年は、石内が個展「絶唱、横須賀ストーリー」で実質的なデビューを果たしてから40年を迎える年にあたります。本展は、この節目の年に、石内自らが「肌理（きめ）」というキーワードを掲げ、初期から未発表作にいたる約240点を展示構成するものです。

住人のいなくなったアパート、身体の傷跡、日本の近代化を支えた大正・昭和の女性たちが愛用した絹織物、亡き母や被爆者らの遺品の写真を通して、存在と不在、人間の記憶と時間の痕跡を一貫して表現し続ける石内の世界を紹介します。

**会期** 2017年12月9日（土）～2018年3月4日（日）  
**会場** 横浜美術館  
**詳細** <http://yokohama.art.museum/special/2017/ishiuchimiyako/>



《ひろしま #106 Donor: Hashimoto, H.》2016年  
 ©Ishiuchi Miyako